

来週の「売り物記事」はこれ



2017年2月24日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

2020年東京 マセソン美季さんの挑戦

26日(日)



東京パラリンピック開幕まで3年半。1998年長野大会のアイススレッジスピードレースで3個の金メダルを獲得したマセソン(旧姓・松江)美季さん(43)＝写真＝は引退後に国際結婚し、カナダで暮らしていました。昨年1月に日本財団パラリンピックサポートセンターのスタッフとなり、今はカナダと日本を行き来して、都内の小学校などで自身の半生とパラリンピックの魅力を



伝えています。「東京はハード面ではバリアフリーになってきている。それでも私は日本に帰ってくると、障害者なんだと思い知らされる」。パラリンピック教育が目指すのは障害を持つ人への意識を変えること。東京大会を契機に「社会が変わったねという日が来てくれたら、うれしい」と話すマセソンさんの軌跡を追いました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

体験分かち合い、明日への扉に——

ルポ「ひきこもり女子会」

夕刊特集ワイド 27日(月)

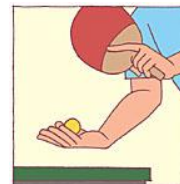


家や自室から出られなくなり、その長期化や高齢化が問題となっている「ひきこもり」。今回は女性に焦点を当てます。「ひきこもり」といえば男性が多いと考えられてきたために、女性たちの生きづらさは見過ごされがちでした。そんな中、「ひきこもり女子会」なる取り組みが始まっています。さまざまな悩み、苦しみを抱えた女性たちが自らの体験や気持ちを語り合い、勇気を得ています。新たな「居場所」に記者がお邪魔しました。

親ありて・伊藤美誠さんの母

くらしナビA面 3月1日(水)

リオデジャネイロ五輪卓球女子団体で銅メダルを獲得した高校生選手、伊藤美誠さん(16)は、小学校の卒業文集に「二〇一六年にオリンピックに出場して、二〇二〇年に優勝したい」と書いていました。幼いころから母の美乃りさん(41)と二人三脚で歩んできた卓球人生。母娘の苦労は並大抵のものではありませんでした。美乃りさんが秘話を明かします。



手軽に美容パック

くらしナビA面 28日(火)



肌が乾燥する季節です。自宅にある手軽な食材で美容パックを試してみましよう。たとえばニンジン。ビタミンAとベータカロテンが豊富に含まれています。ビタミンAには皮膚を保護する皮膚膜を形成し、皮膚の再生を促す働きがあります。ベータカロテンは肌の汚れや毛穴の老廃物を取り除き、ニキビ抑制に効果があるとされます。活用方法を専門家に聞きました。



読者投稿コーナー「女の気持ち」に掲載された投稿者を記者が訪ねる人気コーナー。今回は東京都豊島区の三宅みえ子さん(73)です。80歳になった夫が昨春、胃がんで胃を全摘出し、1泊だけの予定で盛岡へ旅行に出かけた三宅さん夫妻。途中、夫の足がつってしまい、駅前で倒れてしまいました。3人の男子高校生が抱きかかえ、近くのベンチまで運んでくれて……。



大規模災害での医療体制を考える

医療福祉面 3月1日(水)



東日本大震災や南海トラフ巨大地震のような被災地が広範囲に及ぶ災害では、被災地内で治療の難しい重症者を被災地の外の病院へ運ぶ、広域の搬送が必要となります。この一翼を担い、医師が同乗して患者を治療しながら運ぶのが「ドクターヘリ」です。ヘリの運用指針が新たに策定され、より効率的な運用が期待されています。災害時の医療体制の課題を考えます。

こっちの水は甘い~ぞ

どう考える? 官僚の「天下り」問題

オピニオン面 [論点] 3月1日(水)

文部科学省で発覚した天下りあっせん問題。組織ぐるみによる悪質な構図が次々と明らかになっています。官製談合など官民癒着の温床とされる国家公務員の天下りは、規制の強化にかかわらず、繰り返されてきました。一方で「官僚時代に培った専門的な経験は社会に還元すべき」という指摘もあります。再発を防ぐ手立はあるのでしょうか。識者らに聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。